



鯨^{にしん}御^ご殿^{てん}とまり

泊村でニシン漁が始められたのは今から約三百年前と言われています。明治になって、ニシン漁が全盛期を迎えると、泊村には、五十を超える鯨番屋が建ち並び、ニシン漁によって莫大な富をもたらした鯨番屋は泊村の繁栄の象徴でもあったのです。

当時の繁栄を現在に伝えるこの移築、復元された二つの建物は、明治二十七年に親方の川村慶次郎氏が建設した「旧川村家番屋」と、大正五年頃に武井忠吉氏によって棟続きで建設された「旧武井邸客殿」でどちらもニシン漁が盛んだった

当時の泊村の姿をいきいきと想像させます。また、館内には当時の泊村のニシン漁の様子を物語る貴重な資料が展示保存されており、泊村の郷土文化を後世に伝えるための資料として、広く一般に公開されています。

▼「旧川村家番屋」の「漁夫だまり」。漁場を経営する親方と雇った漁夫たちが共同生活をする独特の構造となっている。



▲右が「旧川村家番屋」で左が「旧武井邸客殿」。ともに泊村有形文化財に指定されている。

▼「旧武井邸客殿」の「商談の間」。往時の漁家経営者の豪勢な生活ぶりが偲ばれる。



また、館内には当時の泊村のニシン漁の様子を物語る貴重な資料が展示保存されており、泊村の郷土文化を後世に伝えるための資料として、広く一般に公開されています。

【開館時間】 午前9時30分～午後4時30分

【休館日】 毎週月曜日(月曜日が祝日の時は、その翌日) 11月下旬～4月中旬

【観覧料】 大人(高校生以上)300円
小人(小中学生)200円
団体(20人以上)は100円/人

■お問合わせ先
鯨御殿とまり
北海道古宇郡泊村大字泊村59-1
TEL.0135-75-2849
泊村教育委員会
TEL.0135-75-2311

■交通
岩内バスターミナルより、神恵内線「法輪寺」下車

